



## 田舎暮らし

椿の春は海からやってくる。産卵のために椿川をさかのぼる白魚は、一足早く春をつれてくる。そして今、蒲生田岬と燧岬からなる半島は、山桜が咲き満ち、1年で一番美しい季節である。



椿町 宮崎ミチ子さん

故郷を終の棲家とし、夫婦と猫2匹で引越して10年目

に入る。春は山菜採り、夏は小鰯釣り、秋は家庭菜園の収穫、冬は日溜りでゆったりと過ごす。また猫たちも野生に目覚め、鼠、兎、鳩、雀、もぐら、こうもりとつかまえてくる。この2匹は母子の老猫なのだが、未だに親は鼠をつかまえたら必ず子に与える。毎日のように新聞で子供への虐待を知るにつ

れ、猫たちの愛情の深さに感心させられる。

私は海が好きだ。穏やかな海も荒れている海も、眺めていると優しくなれる気がする。嬉しいにつけ、悲しいにつけ、海を眺めてきたように思う。この自然の中で子育てできたことが、私の幸せの原点である。

そして今、温暖な椿町の四季折々の自然と、濃厚な地元の方々に支えられて、現在のささやかではあるが幸せな第二の人生がある。絶えず何かに挑戦している忙しい夫と、いつものんびりと我が道を行く私と、今夜も狩に出かけるであろう猫たちとの田舎暮らしである。

次は、領家町の川田紹子さんをお願いします。

## 市民文芸

### 短歌

阿南市文化祭  
短歌大会 作品

#### 入選

遠き日に風が攫って行ったもの愛。そして夢  
思いは清しき

#### 入選

ガチャガチャと急に鳴き出すくつわ虫時は移  
ろい今日より九月

湧水は甘露の味する古里に冷っこ水とて飲み  
し幼な日

そつとくれし菓子パン三個はにかみし孫の掌  
もとの男らしくて

熱帯夜の夜明けの窓を開け放ち眠れぬまなこ  
に木の香吸わせり

返しても押し返してもよせて来る老と云う波  
押し返したし

残暑続き横になればと夫の言う昼寝と言わぬ  
優しさのあり

地の底の力は知らず枯蓮田

初恋の君住む町や君子蘭

ご近所の犬と仲良く日向ぼこ

結願のぜんざい甘し寒念仏

初日の出行く未思ひ門に立つ

鯛焼きを抱へて父の熱き胸

休日には獵夫となりぬ仏壇屋

笛鳴や天賦の才をしらで泣く

吾は喜寿バレンタインのチョコレートト

市瀬 和子

岡本 隆子

森 茂子

神野 春月

田中 千香

泉 夕起子

阿部ますみ

大西 樫木

古川北斗星

### 川柳

阿南川柳会  
高木旬笑 選

よく回る頭を持って世を渡る

家計簿にへそくりの謎かくしてる

今が花すぐに去りゆく今を生き

お祈りをしながら少しずつ呆ける

確認に手間取る免許証の顔

佐野 智子

臣森 愛香

田上 鶴子

鈴木レイ子

高木 旬笑

### 俳句

阿南市俳句連合会選

みどり児の足に母の名梅つばむ

島 玲子